

Annual Report 2018

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学

看護教育研修センター

年報 2018



京都橘大学

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 8

認定看護師教育課程 9

看護キャリア開発事業 13

たちばなSIM事業 14

通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座 16

看護倫理研修 20

資 料 23

資料1 『たちばなSIM 2018』のご案内 24

資料2 2018年度 看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座 25

資料3 『看護倫理研修2018』のご案内 26

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

梶谷佳子

京都橘大学看護教育研修センターの事業は、2007年に認定看護師教育課程設置によって始まりました。皮膚・排泄ケア分野では2018年度で329名の修了生を輩出しています。

その後、本センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行い、地域に貢献する看護職者を育成する」ことを目指し、活動を継続してきました。看護専門職の継続教育として、看護研究支援、看護実践力の向上を目指すたちばなSIMの開催、通信教育課程看護学コース学修レポート作成講座など、看護職のキャリアを開発するためのプログラムを企画・運営して参りました。活動実績も増え、事業評価を行い、効果的なプログラムの開発を行う段階にあります。

京都橘大学の設置母体である京都橘学園では2014年度から「マスタープラン2022」が始まりました。社会のグローバル化と成熟化が進むなか、社会から学校に寄せられる期待はますます大きく、複雑になっています。このような背景において、2022年までの将来像と実行プランが策定されました。このプランを「マスタープラン2022」と言います。

本センター事業は、地域連携としてマスタープランの一つに位置づくと言えます。学部教育では毎年約100名の看護職を輩出しています。卒業後も知識・技術を高められるよう、一人一人が学び続けられる環境や機会を作ることが重要だと考えます。その一助となれるようなプログラムを提供していきたいと考えております。また、本学卒業生のみならず、地域で活躍される看護職の方々の要請に応えられるような学習環境が整えられればと願っております。このような形で教育や研究のフィールドである臨床の場を提供して下さっている方々への恩返しができればと考えます。

たちばなSIMにおきましては、2017年度から、卒業生とともに勤務する看護職への門戸を開きました。そして、少子高齢社会において、多くの課題を有する混沌とした医療の中で、常に大切にしたい医療者の構えを問いかけるようなプログラムを構築したいと考えました。それを体現させたものが、看護職の倫理プログラムです。プログラム前半は、学生が実習中に遭遇する倫理的な課題について、そして、後半は、参加者が解決を模索している課題についてディスカッションしました。参加者の方々からは、今後もこのような研修に参加したいとの声や、今後の看護実践で役立てていきたい主旨の意見も聞かれました。今後も継続的に本事業を展開していきたいと考えております。また、通信教育課程看護学コース学修レポート作成講座のために作成したテキストを活用し、より効果的な学習を支援する取り組みも進めております。実施後のアンケートからも肯定的な評価を得られております。お一人でも多くの参加者が学位授与まで到達されることを願っております。

各事業の詳細につきましては、それぞれの事業報告をご覧くださいと思います。看護職としてのキャリア開発のために、本センターを大いに活用して頂ければ幸いです。今後も地域に拓かれた大学に附置するセンターとしての役割を自覚しつつ活動の計画・実施・評価を行っていきたくと考えます。

本年報は、本センターの活動報告をまとめたものです。お読み頂き、忌憚のないご意見、ご助言をいただきますようお願いいたします。

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認
2013年度 12月 19日	2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改訂内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認

開催時期			内 容
2014年度	4月	23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告
	12月	9日	第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認 2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度	4月	22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告
	12月	10日	2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認
2016年度	4月	20日	2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
	12月	13日	センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告 2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認 2017年度教育期間の確認と承認
2017年度	4月	19日	2016年度修了報告および2017年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
	12月	15日	センター教員の社会貢献活動報告および2017年度の計画の報告 2017年度生の修了判定会議、2018年度入試結果の確認と承認 2018年度教育期間の確認と承認
2018年度	4月	18日	2017年度修了報告および2018年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2018年度の計画の報告
	12月	13日	2018年度生の修了判定会議、2019年度入試結果の確認と承認 2019年度教育期間の確認と承認

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

	4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
	6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
	7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
	7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
	9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
	10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
	11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会
2013年	1月	16日	第9回看護キャリア開発委員会
	2月	19日	第10回看護キャリア開発委員会
	3月	19日	第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

	4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
	6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
	7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
	9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
	10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
	11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会
2014年	1月	22日	第8回看護キャリア開発委員会

2014年度

	4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
	7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
	9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
	11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
2015年	1月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
	3月	5日	第7回看護キャリア開発委員会

2015年度

	4月	15日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
	7月	6日	第3回看護キャリア開発委員会
	9月	10日	第4回看護キャリア開発委員会
	10月	14日	第5回看護キャリア開発委員会

2016年	11月	27日	第6回看護キャリア開発委員会
	1月	6日	第7回看護キャリア開発委員会
	2月	10日	第8回看護キャリア開発委員会

2016年度

	4月	5日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
	6月	20日	第3回看護キャリア開発委員会
	8月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
	9月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
	10月	24日	第6回看護キャリア開発委員会
	12月	2日	第7回看護キャリア開発委員会
	2017年 2月	15日	第8回看護キャリア開発委員会

2017年度

	4月	18日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
	7月	12日	第3回看護キャリア開発委員会
	9月	26日	第4回看護キャリア開発委員会
	10月	30日	第5回看護キャリア開発委員会
	12月	18日	第6回看護キャリア開発委員会
	2018年 2月	16日	第7回看護キャリア開発委員会

2018年度

	4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
	7月	11日	第2回看護キャリア開発委員会
	9月	19日	第3回看護キャリア開発委員会
	10月	16日	第4回看護キャリア開発委員会
	11月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
	2019年 2月	18日	第6回看護キャリア開発委員会

組織

2018年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
多 田 千和子	京都橘大学看護教育研修センター	准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
宇 野 育 江	京都橘大学看護教育研修センター	講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
藤 本 幸 三	京都橘大学看護学部看護学科	教授
餅 田 敬 司	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
黒 瀧 安紀子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
小 西 奈 美	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

看護キャリア開発委員会

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
河 原 宣 子	京都橘大学看護学部長	
堀 妙 子	京都橘大学看護学部看護学科	教授（看護学科主任）
竹 下 夏 美	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
岡 田 純 子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
野 島 敬 祐	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケア認定看護師分野の研修について

2018年度認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア分野では、3.5倍の受験倍率を経た30名が入学した。皮膚・排泄ケアは新生児から高齢者のあらゆる年代に、急性期、慢性期、終末期の全ての病期において必要とされる普遍的な看護ケアであり、急性期病院のみならず地域医療の場においても皮膚・排泄ケア認定看護師のニーズは高い。加えて日本看護協会 認定看護師制度の再構築、教育制度の見直しにより、一時的に教育機関の減少していることから、受験の倍率は増加している。これらのことから、当学を受験し入学する研修生は関西圏のみならず、全国から集まっている。

本課程は2018年5月16日に始まり12月21日に修了した。9月中旬までは、講義と学内演習を行った。前半の講義で学んだ基礎知識を臨床に活用できるよう、後半では臨床で活躍する皮膚・排泄ケア認定看護師を講師にした5回の学内演習、実技演習やグループワークを頻回に行った。9月18日から11月22日までは180時間の臨地実習を行った。臨床における皮膚・排泄ケア認定看護師の実践、指導、相談を学ぶとともに、自己の課題を明確化することができた。実習終了後は実習の振り返りとケースレポートの作成・発表を行い、12月7日には修了試験を行った。11月に1名が自主退学したが、29名はすべての科目試験、臨地実習、修了試験に合格し修了することができた。これにより修了生は通算329名となった。

2. 入学説明会実施

入学説明会は、2019年度受験を目指す人を対象に8月7日に実施し、88名が参加した。当センターの教育課程の概要や特徴、募集要項の説明のほか、修了生2名の体験談の発表や研修中の演習を見学した。

また終了後は個別の相談に応じた。2018年度の入学試験には説明会参加者の51名が受験し、合格者は11名であった。

3. 修了生対象の第6回認定看護師フォローアップセミナーの開催

2019年1月26日にキャンパスプラザ京都 第2講義室において、第6回認定看護師フォローアップセミナーを開催した。「皮膚・排泄ケア認定看護師のこれから～在宅ケアへの挑戦～」のテーマのもと、地域で活躍している皮膚・排泄ケア認定看護師2名から、準備段階の工夫や、より実践的な取り組みの実際、今後の課題について講演して頂いた。また、「セルフ健康チェック」「訪問看護・居宅介護支援」事業を展開している、ケアプロ株式会社代表取締役社長の川添高志先生をお招きして、普段病院に勤務する看護師にはない視点からご講演頂き、認定看護師の今後（特に在宅ケア）について考える機会とした。参加者は121名でアンケート（回収率96.7%）では、約93%が「大変有意義だった」「有意義だった」と回答していた。修了生は、地域包括ケアシステムの充実を図るため、地域で活動することの重要性を認識しているが、実際にどのように地域に出ればよいかわからないという声が多く聞かれていた。今回のセミナーを受講することで、今後の活動のヒントを得ることができたと考える。

4. 認定審査に対するフォローアップ研修

日本看護協会の認定審査は2019年5月16日に実施される予定である。第12期（2018年度）修了生の認定審査全員合格に向けて、修了後にフォローアップ研修を実施した（2019年2月、3月、4月）。

研修の内容は、認定審査を仮定し修了生が相互に問題を作成、解答と解説を行う。これにより審査に

向けて自己に足りない知識を再確認し、モチベーションを保つことを目的としている。2019年2月6日に行われた第1回目のフォローアップ研修では26名が参加した。

5. 教員の専門領域の活動について

【多田 千和子】

- 1) 京都橘大学看護学部3年生に対し「ストーマケア」および「高齢者の皮膚ケア」に関する講義を2コマ（5月）、1年生に「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」で皮膚や消化器官に関する講義を5コマ実施した。
- 2) 10月 ケンコーセミナー2018 「ストーマケアの基本」において、講演及び演習指導を行った。
- 3) 以下の関連学会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。
 - ①第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（札幌）
 - ②第20回日本褥瘡学会学術集会学術集会（横浜）
評議委員会に出席
 - ③第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集会（大阪）

【宇野 育江】

- 1) 洛和会音羽病院にて「排尿ケア外来」を実施した。（2回／月）
- 2) 以下の関連学会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。
 - ①第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（札幌）
 - ②第20回日本褥瘡学会学術集会（横浜）
 - ③第25回日本排尿機能学会（名古屋）
 - ④第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集会（大阪）
 - ⑤第20回日本女性骨盤底医学会（東京）
 - ⑥第60回関西STOMA研究会（滋賀）
一般演題Ⅱ 座長
- 3) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
京都滋賀ブロック ストーマリハビリテーション講習会実行委員 兼 演習インストラクター
- 4) 京都橘大学1年生に対し「フィジカルアセスメントⅠ」で腎と体液の恒常性の維持に関する講義を2コマ実施した。
- 5) 日本コンチネンス協会 電話相談員として適時電話相談に対応した。

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア認定看護師 多田千和子

看護キャリア開発事業

■たちばなSIM事業 14

■通信教育課程看護学コース

学修成果レポート作成サポート講座 16

■看護倫理研修 20

看護キャリア開発事業

■たちばなSIM事業

京都橘大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム「たちばなSIM」を開催しており、今年で7年目となる。

参加した卒業生は、日々、忙しく臨床現場で働くナースであるが、「たちばなSIM」では、学生に戻り、学ぶことを楽しんでいる様子が印象的である。懐かしい学び舎で、懐かしい教員が出迎える。参加者は同じ学部の卒業生ばかりで、共通の思い出がある人々。明るい雰囲気、リラックスして研修を受けることができる環境を作り出しているのが、本プログラムの大きな特徴である。それぞれ参加者は、職場での看護実践での出来事、悩みや戸惑いを気兼ねなく、安心して語り合える機会にもなっている。

今年度は、昨年から実施している本学卒業の助産師を対象とした母体急変時シミュレーションと、臨床推論を学ぶシミュレーションの2回で企画した。

第1回の「母体急変の初期対応」では、10期生を中心に助産師13名と見学者1名が参加した。参加者を卒業生のみに限定するのではなく、職場の同僚も誘って来てもらうことで、より訪れやすくなったのではないかと考えられた。

午前中は座談会としてアイスブレイクを兼ねて、小グループに分かれ、「お互いについて知ろう！」というテーマで、自由に話し合ってもらった。様々なケースに遭遇している参加者同士で盛り上がり、

話は尽きない様子であった。続いて、「知ろう、学ぼう、京都プロトコル」について講義を行い、母体急変対応のための知識を確認した。その後、シミュレータを使用し、初期対応として胸骨圧迫のトレーニングを実施し、さらに妊婦モデルを使用しての胸骨圧迫を体験してもらった。午後からは、3つのケースでのシナリオシミュレーションを行った。ケース1は「分娩進行中の産婦に起きた羊水塞栓」、ケース2は「経膈分娩後に出血が増加した褥婦に対する対応」、ケース3は「緊急帝王切開への移行」である。産褥婦の異変に気づいた助産師が、適切に初期対応でき、チーム医療で対応していくための行動を問われるシミュレーションであった。産褥婦のシミュレータは、経時的に状態が変化する設定になっており、リアリティのある急変時の状況を再現するよう



写真1 第1回たちばなSIM 講義風景

表1 2018年度「たちばなSIM」プログラム

回	開催日時	テーマ・内容	担当	場所	受講人数
1	6/3(日) 10:00~16:00 オープンキャンパス	母体急変時の初期対応	兵藤、前田、宗、常田、 工藤、マルティネス、野島、松原 (大学院生)	第2実習室	13名
2	7/22(日) 13:00~17:00 オープンキャンパス	臨床推論プロセス 徹底トレーニング!!	野島、マルティネス、菊岡 佐野、平井、岩田(京都第二赤十字 病院)	第1実習室	18名



写真2 母体急変対応シミュレーションの様子



写真3 肺塞栓患者への対応シーン

に努めた。参加者は熱心にシミュレーションに取り組み、デブリーフィングでの意見交換も活発に行われていた。助産領域における急変対応のシミュレーションは体験する機会が少なくと言われており、今回の企画は、参加者にとって非常に貴重な学びの機会になっていたようである。

第2回の「臨床推論プロセス 徹底トレーニング!!」では、看護師が行う観察やアセスメントを臨床推論プロセスに活かすことを目的に、4つの症例患者に対して状態把握に必要な観察・アセスメントを行う内容であった。学習効果を上げるために重要なフィデリティを高めるため、実習室に工夫を凝らし、リアルな模擬病棟を再現した。病室だけでなく、廊下やトイレ、詰所といった病棟を作り上げた。シナリオは「不整脈のある患者」と「気胸になった患者」、「閉塞性イレウスになった患者」、「肺塞栓になった患者」の4つ準備をした。グループで4つのシナリオをラリー形式で対応していくことで、臨床推論プロセスを感じてもらえた。ファシリテーターは、グループディスカッションが促進されるように関わり、和気あいあいとした雰囲気になるよう努めていた。また、グループで協力して、患者への看護を考えることができていたグループにBEST discussion賞と

いう形で表彰を行った。学習の動機づけに繋がればという思いがあった。たちばなSIMで前もって経験することで、実際に現場で起きた時に、少しでも行動できることに繋がると期待したい。デブリーフィングでは、基本的な知識を振り返りながら、患者理解やケアの優先順位、それぞれの経験を活かした役割分担について活発な意見交換がなされていた。

全プログラムを通して、参加者のアンケート結果から、満足度は高く、日々の仕事に役立つ内容であった、という評価を得ている。知識や技術だけでなく、自身の看護実践における行動について振り返ることに繋がっていた。多くの意見として「楽しく学ぶことができた」といったコメントがあり、母校で学べる機会として、今後もたちばなSIMを展開し、卒業生のニーズに応じたプログラムを提供していきたいと考える。

今後も、より一層魅力あるプログラムを提供し、看護職としてこれからも病と闘う人々の支えになり、専門職者としてキャリアアップしていく卒業生たちを支える場づくりにこれからも取り組んでいきたい。

京都橘大学看護学部 専任講師 野島 敬祐

■通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座

『看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座』は、本学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修で単位取得した学生が、大学評価・学位授与機構に学位申請のために提出する学修成果レポート作成のスタートを支援するための研修として、2013年度から開始した。2013年度は個人指導としたが、受講者が主体的にレポート作成に取り組めるよう、2014年度からグループ演習を中心に展開している（表2参照）。

1. プログラムの概要

本講座のプログラムは、レポート作成のプロセスに添い、STEP1《テーマを絞る》、《テーマに関連した文献検索》、STEP2《レポートのアウトラインの作成》の2回で、グループで学習する。開講時期は5・6月であり、STEP1とSTEP2の間は1ヵ月あけ、受講者が課題意識を持って取り組めるようスケジュールを設定している。講師は本学教員と通信教育課程を担当する教員であるが2018年度は本学の看護学部教員が担当した（表1参照）。

表1 プログラムの概要

STEP1：《テーマを絞る》		
10:45～12:15	論理的思考について(講義)	講師：梅本
13:00～16:15（休憩15分含）	レポート作成にむけたグループワーク、テーマに関連した文献検索（演習）	A日程講師：梶谷、上澤、竹下 B日程講師：小坂橋、竹下
STEP2：《レポートのアウトラインの作成》		
13:00～16:15（休憩15分含）	レポート作成にむけたグループワーク（演習）	A日程講師：梶谷、上澤、竹下 B日程講師：小坂橋、竹下

2. 受講者数

受講者数は、A日程は3グループ編成、B日程では2グループ編成とした（表2参照）。

表2 受講者数とグループ数

	日程	時間	受講者	グループ数
STEP1	A 日程：5月15日（火）	10：45～16：15	16名	3
	B 日程：5月24日（木）	10：45～16：15	11名	2
STEP2	A 日程：6月12日（火）	13：00～16：15	14名	3
	B 日程：6月21日（木）	13：00～16：15	11名	2

3. 受講の目的、理解状況

プログラム受講時のアンケートをもとに、参加動機、講座で理解できたこと、受講した感想等を下記にまとめた。アンケートの回答数はA日程のSTEP1が16、STEP2が14、B日程のSTEP1が6、STEP2が10であった。

1) STEP1 テーマをしぼる

(1)参加動機・目的

- ・学位授与機構申請に提出するレポートを作成するために基本的な論理的思考について学びたかった。
- ・レポートや論文の書き方が分からなかった。
- ・テーマを明確化できなかったため、テーマを明確化するため。
- ・職場での指導的立場に関連して論理的思考が求められるため、自己研鑽も兼ねて受講を希望した。
- ・レポート作成にあたり、いきづまりを感じてい

たため、また、他の受講者の方々と情報共有をしたかった。

- ・看護学士取得を目指して「論文の書き方」の指導を受講し、合格に向けてのモチベーションアップのため。
- ・レポート作成に自信がないので、自信をつけるため

(2)理解できたこと

- ・テーマは簡潔にし、一文一義で一文にすること。
- ・言葉を明確に掘り下げていくことや言葉の意味、共通認識について考えることの必要性。
- ・文章の書き方。
- ・論理的な思考過程や文をどのような書いていったら良いのか。
- ・論理的な文章とは、文章作法について。
- ・論理的思考に基づいた文章の構成。
- ・文献の検索の方法や作成の手順と今後のレポートを作成する方向性。
- ・言葉1つ1つを丁寧にすること、文章をまとめようとしなくていいこと、文章を深めていくこと。
- ・レポート内容の方向性。
- ・基礎的な論文の書き方や注意点等。
- ・レポート作成講座の接続詞の使い方。
- ・小論文の書き方について
- ・文章の書き方やレポートの作成方法。
- ・文章を論理的に構成する基礎やテーマの焦点化について
- ・レポートテーマのしぼり方、文献検索等
- ・文章を論理的に構成する基礎やテーマの焦点化について

(3)理解しにくかったこと。

- ・具体的なレポートの形式等。

- ・文献検索について。
- ・学士申請方法。
- ・文献講読方法。
- ・すなわち～、言語化することの難しさや言葉の概念への知識不足。

(4)感想

- ・色々な思考が聞けて良かった。
- ・久々に学生に戻れた気分で楽しく過ごせた。
- ・受講内容に加え、他の受講者とのディスカッションができ楽しく受講できた。
- ・グループワークでは、個々の思いや実情を話せたので、自分のリフレクション、リフレッシュになった。また他の受講者に話すことでレポートのテーマと内容が明確化できた。
- ・異なる職場の看護師仲間とのディスカッションで仕事のモチベーションも上がった。レポート作成することが、自分の意見や考えを表現できる場にもなると感じた。
- ・レポートテーマを本講座のあとに決めるつもりであったが参加前にある程度決めておけばよかった。
- ・通信大学で2年在籍しているが、初めての来校だったので売店や自販機の場所等、学内の案内図を配布があればよかった。
- ・同じ目標をもった仲間との交流もあり、参考になり良かった。
- ・自分でテーマや内容を考えてもわからなかったことがグループワークをすることで明確化できた。
- ・テーマによって文献が少なく困った。
- ・文献検索時間が限られており、焦った。もう1回受講できたらいいな。(全3回以上、仕上がりまで！)

- ・書いたものを確認してほしい。
- ・たったの2回で講義は終わるのが残念であった。

2) STEP2 レポートのアウトラインの作成

(1)参加動機・目的

- ・レポートの書き方がわからず、不安だった為
- ・レポートを作成したことがなく、どのように文章を作成していくのか学びたいと思ったため、自宅で文献検索を行っても、それらをどのように文章につなげていけば良いのか悩んでいたため、テーマが迷走していたため。
- ・教員の指導の下、取り組むテーマを絞り骨子をおおよそ明確にしたいと考えた。また、レポート作成に対する意欲を高めたかった。
- ・他の受講者との情報交換。
- ・看護学士取得に向けて学位授与機構への提出レポート作成方法、方向性の確認。
- ・レポート作成の具体的なアドバイスが欲しい為。
- ・前回は踏まえてレポート作成のために前にすすみたい。
- ・学修成果レポート作成に際してイメージが湧かなかったため。
- ・レポートや小論文を書くのが苦手だったので、参考にしたいと受講した。
- ・レポートの書き方(構成)の仕方が分からなかったため。
- ・学位がほしかったから。
- ・レポートの書き方が分からず、どのように書き始めたら良いのか不安だった。
- ・目次を必要とするレポート作成をしたことがなかった。
- ・学位申請に向けて知識を得たかったため。

(2)理解できたこと

- ・文献検索方法や方向性。
- ・文献の使い方、文章の作成方法、アウトライン。
- ・引用・参考文献の活用を具体的に理解することができた。
- ・「はじめに」、参考文献の書き方、レポートの方向性。
- ・自分のテーマに沿ったアウトラインの作成のイメージがついた。
- ・レポートを書く時の研究の仕方や主体をどこにおくかなど。
- ・もっとテーマを絞って事例ですすめていくと論理的にまとめやすいこと。
- ・レポートの書き方、自分のテーマの方向性など。グループでの検討ができたので、他の人の意見ややり方など、レポート作成方法や目的の考え方など理解することができた。
- ・レポートの書き方、構成や詳細なルール。

(3)理解しにくかったこと。

- ・図書館の使い方。

(4)感想

- ・レポート提出直前に教員の指導が欲しい。
- ・もう一日欲しい、2日間であればもう少し間をあけてからの方がもう少し具体的に相談しやすいと思った。
- ・パソコン持参をすればよかった。
- ・教員から直接指導を受けることで文章作成がスムーズにできるようになった。また、GWすることで他の人の文章の書き方も知ることができた。
- ・教員から具体的なアドバイスをもらえたので、レポートが書けそうな気がしてきた、2回だけ

のグループワークは少ないと思うので、もう数日あると良い、担当教員から継続的にサポートをうけたい。

- ・他の受講者との目に見える関係を気づくことができ、励みになった。
- ・今回のアウトライン作成後、作成したレポートを持ちより、もう1度指導を受けたい。
- ・時間が短く、文献検索や指導教員への質問がし足りなかったけれど、受講してイメージがつかめた。
- ・難しく考えすぎて多くのことを入れようとして迷走していた状態になっていた。他者の意見も聞くことで、他者が興味をもつ部分など重点になることもわかり、新鮮な視点で意見をもらえてとてもよかった。
- ・2回では少ないと思う。
- ・2回の講座では時間がたりない。グループワークもよい意見交流できるため。
- ・事前準備が不足し、具体的なアドバイスを求めることができなかったため、もう一度、ある程度レポートができた時にアドバイスを受ける機会が欲しい。
- ・もう少しフォローしてもらえるとありがたい。
- ・さらにあと2回程講義や指導を受けたい。また、申請手続き方法などのアドバイスも欲しい。
- ・教員から直接指導を受けられてよかった。
- ・前回から時間があいていたが、レポートに着手できていなかったの、ある程度構成をまもっていた方がより具体的な指導を得られたのではないと思う。
- ・時間が短く、文献検索や教員への質問がし足りなかった。

3) レポート作成に関する資料配布

学部生用に作成したレポート作成に関する資料をセンター長に了承を得て、配布を行った。

4) 総括

レポート作成に対するテーマや内容に関するイメージがつかめず不安を抱いたり、行き詰ったりしているという声が多数あった。今回のレポート作成サポート講座を受講し、その不安が軽減し、テーマ決定や方向性が具体化されたという受講生が多かった。

参加者からの感想は、開催日程を増やしてほしいとの声があるほど好評であった。また、梅本教授の「論理的思考について」の講義に加えて、より具体的なレポート作成に関する講義への希望もあった。さらに、作成したレポートの確認を指導にあたる教員にお願いしたいとの声が多数みられた。

4. 今後の課題と対策

基本的なレポート作成に関するレディネスが不足している受講生がほとんどであった。通信教育課では、受講生にレポート作成講座の無料視聴ができるシステムが整備されているということであった。効果的にサポート講座を進めるために、レポート講座の視聴の有無、視聴の促し、テーマや内容等の事前提出書類の対応は、申込受付時に対応することが確認され、申し込み用フォーマットの加筆・修正を行うこととなった。

また、通信教育課より看護学部教員への負担を減らすために外部講師の増員の意向があることが確認され、外部講師として2名依頼することとなった。さらに受講生から希望のあった学位授与機構申請に関するガイダンスも次年度から開始することとなった。

看護学部看護学科 准教授 竹下 夏美

■看護倫理研修

京都橘大学看護学部では、2018年度新規事業として、実習指導者の役割を担っている方、および、今後役割を担う方やその関係者を対象に、看護倫理研修を実施した。この研修を企画したきっかけは、病院や地域で働く看護師の学習ニーズについて現場で働く看護職に聞き取ったことにある。看護職のみならずが勉強したいこととして回答した内容の多くは、看護師や学生への教育に関することであった。例えば、「困難な事例に対して、看護理論を活用して患者を理解し看護したい」、「学会やセミナーで得

た新たな知識や技術を実践につなげることが難しい」などで、看護師の方々が、質の高い看護を実践するうえで、さまざまな学習ニーズを持っていることが理解できた。これらを踏まえ、日々の実践の中で経験する倫理的な課題（デイリーエシックス）について丁寧に振り返り、どのように向き合っていけばよいのかを考えられるような研修を企画した。また、研修目標は、学んだ知識を実習指導に活用するための考え方について理解することができるとした（表1）。

表1 2018年度「看護倫理研修」

【目標】		
倫理の問題を考える際に必要な基本的知識と思考プロセスを学ぶ。 実践の場で経験する倫理的な問題について、異なる経験を有する実習指導者間でディスカッションすることを通して、実習指導における倫理や、倫理的ジレンマを抱いた学生への関わりについて考えることができる。 倫理的な知識や思考を実習指導に活用するための考え方を理解することができる。		
時間	内容	担当者
午前	オリエンテーション 【講義】倫理に関する基本的知識・思考プロセス	岡田 梶谷
午後 (1部)	事例検討のすすめ方、グループワークと発表の仕方 【グループディスカッション①】 自己紹介、役割分担（司会、書記、発表者） 倫理的意思決定の4ステップモデルを用いて事例を整理する。 中間発表、グループ討議（考え方の整理）	岡田 工藤 餅田
午後 (2部)	【グループディスカッション②】 倫理的意思決定の4ステップモデルを用いて事例を整理する。 発表、グループ討議（考え方の整理） 研修のまとめ	

参加者は9名で、年齢や看護師経験年数、看護実践の場は多様であった。参加の動機は、看護師として学生さんにうまく説明できないときにどうしたらよいのか考えたい、学生さんの思いをうけてどのように対応することが最善か悩むことも多い、などで、普段の実習指導の場面で困っていることを解決したいという思いが感じられた。

午前中は、看護倫理の基本についての講義とした。

参加者は、看護倫理を学ぶ意義や倫理における歴史的経緯、医療における倫理原則、看護者の倫理綱領などについて、用語の意味も確認しながら基本的な事柄を学んだ。参加者からは、「学問として倫理を学ぶことでいろいろな視点から事象を考えるきっかけとなった」、「倫理原則を考えながら何を優先しているのか、何に重きを置いて、その行動をしているのかを考えていくことが必要なのだった」となど

の意見が聞かれ、過去に教科書や授業で学んだ内容を再確認する機会となったと考える。

午後からは、倫理的意思決定の4ステップモデルを用いて事例を整理し、自分自身がどのように向き合っていけばよいのか、あるいは学生にどのように関わればよいのかを考えられるようなグループワークとした（写真1、2）。

グループディスカッション①では、整理する事例を、大学で作成した13事例の中から参加者を選んでもらった。参加者は2グループに分かれ、自己紹介したうえで、自身の経験も交えながら、熱心にディスカッションしていた。特に、事例の理解の段階では、参加者は、「こういうの、あるあるですね」、「でもそれって、患者さんの安全のために必要な事ととらえていました」など、自部署での看護を想起し、そこにある考え方を認知しながら進めるということを行っていた。そして、「葛藤はあるけれど仕方がないと理由をつけて自分も行っていた」と、自分の考え方や行動を振り返る機会となっていた。

グループディスカッション②では、参加者の中から話し合いたい事例を提示してもらった。取り組んだ事例は実際に現場で起きているリアルな内容であり、より具体的に話し合うことができていた。例えば、大学側が提示した事例では、そこに書かれている以上のことは想像するしかなく、今一つ現実味にかけるところがある。しかし、参加者の事例では、実際の状況やその場面で担当看護師が考えたことなどを確認しながら進めることができる。そして何より、参加者自身も、質問に答えることで、「私ってそういう風に考えていたんだ」といった振り返りの機会となっていた。このように、②では、参加者同士の活発なやり取りが展開され、その結果、倫理に関する理解が深まり、自部署でも実践してみようといった前向きな意見が聞かれたのだと考える。



写真1 グループワークの様子



写真2 グループワークの様子

研修参加者の意見に、「他施設の人と話せてよかった」ということがあった。本研修では、参加者全員が倫理的な課題について丁寧に振り返り、どのように向き合っていけばよいのかを考えられるような研修の実施をモットーに、少人数でのグループディスカッションと、複数のファシリテーターで進行するという方法を採用した。このことが、自由に、そして活発に意見を言い合える雰囲気を作り出し、参加者の満足度につながったのだと考える。

今回、看護倫理研修という新たな研修を実施したが、参加者からは、楽しかった、有意義な時間だった、また参加したいといったよい評価が得られた。今後も、臨床の看護職の学びにつながるようなプログラムを企画していきたい。

京都橘大学看護学部 専任講師 岡田 純子

資 料

資料 1



2018 京都橘大学 看護教育研修センター

たちばなSIM.

開催場所 京都橘大学 清優館 演習室 **参加費** 卒業生 ¥ 3,000/回 その他 ¥ 4,000 /回
 (教材費・お弁当or軽食・茶菓子を含む)
対象者 本学部卒業生
 卒業生じゃない友達も一緒に参加OK!! **定員** 各30名 (先着順)

大学卒業後も看護学を学び続け、保健医療の現場で活躍する卒業生を応援する事業です。
 リラックスし、安心できる学びの空間で、働きながら身に付けた知識を改めて学びほぐす場を提供します。
 シミュレーションを取り入れながら楽しく学ぶ「たちばなSIM.」, みなさんの参加をお待ちしています!!

program

第1回 母体急変時の初期対応 2018年6月3日 (日) 10:00~16:00
 最新シミュレータで学び、動ける助産師になろう!

看護に活かす!!

第2回 臨床推論プロセス 徹底トレーニング!! 2018年7月22日 (日) 13:00~17:00
 4症例を通して、ラリー形式で観察・アセスメントに挑戦!! 臨床推論プロセスを鍛える!!

担当教員 マルティネス 真喜子
 野島 敬祐 — 工藤 里香 その他

お申込み方法

専用入力フォームからの申し込み → <https://goo.gl/HCVB5H>
 京都橘大学看護学部 facebookからの申し込みもOK!!

お申込み・お問い合わせ先

京都橘大学 看護教育研修センター
 〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34
 TEL&FAX 075-574-4133 E-mail 3academic@tachibana-u.ac.jp
 ※9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)



育ちあふ、響きあふ

京都橘大学

資料2

2018年度 京都橋大学 看護キャリア開発事業
通信教育課程看護学コース履修者のための
学修成果レポート作成サポート講座

京都橋大学看護教育研修センター

京都橋大学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修生として修了された皆さんが、大学改革支援・学位授与機構に学位申請をされる際に学修成果レポートの提出が必要です。

学修レポート作成にむけて、何を書こうか、どのように進めていったらよいかなど、不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。そのような方々をサポートする講座を開催いたします。

この講座は、学修レポート作成のスタートを応援するものです。個人指導ではなく、**グループワークで学習を進めます**。学位申請という同じ基をもつ人が互いに支えあうネットワークを作ってください。そして、受講後は、互いに支えあって学修レポート作成に取り組んでください。

【受講対象者】

本学の科目等履修生「看護学コース」を修了された方および修了見込の方で、2018年10月期申請または2019年4月期申請を予定されている方。

※通信教育課程の前掲科目修了試験は8月に実施されます。

履修中の方はいしつかりと学修計画を立てて、看護学コースの科目修了試験に向けての学習および学修成果レポートの作成を進めてください。

※未修得単位があり、2018年度に在籍期間延長予定で本講座の受講を希望される方は、事前に通信教育課にお問い合わせください。

TEL: 075-574-4335 ※9:00~17:00(土・日・祝日は除く)

E-mail: admin@tachibana-school.jp

(講座申し込み先ではありませんのでご注意ください)

【日程】

2日間の学習プログラムです。A日程、B日程のいずれかを選んでください。

※ Step2のみの受講はできません。

	A日程	B日程	開催場所
Step1	2018年5月15日(火)	2018年5月24日(木)	京都橋大学
Step2	2018年6月12日(火)	2018年6月21日(木)	

【プログラム】

Step1: 《テーマを絞る》		講師：京都橋学園理事長
10:45～12:15	論理的思考について（講義）	
13:00～16:15 （休憩 15 分）	レポート作成にむけたグループ学習	講師：京都橋大学教員
Step2: 《レポートのアウトラインの作成》		講師：京都橋大学教員
13:00～16:15 （休憩 15 分）	レポート作成にむけたグループ学習	

【受講料】

Step1のみ	15,000円
Step1とStep2	30,000円

【事前準備】

・受講前に、学位授与申請案内『新しい学士への途』および受付完了後に送付される資料を熟読しておいてください。(資料は講座当日に必ずご持参ください。)

【その他】

・受講日は、大学内での文献検索が可能です。

・参考文献として以下を挙げます。

『松本肇, 秋場研 (2014): 短大・専門学校卒ナースが簡単に看護大学卒になれる本 改訂4版, エール出版社, 東京。』

【申し込み・問い合わせ】

申込期間: 2018年3月2日(金) 10:00 ~ 2018年4月13日(金) 17:00

申込方法: 下記URLの「申込フォーム」よりお申し込みください。

<https://goo.gl/GNxa3k>

申込受付後、受講料振込方法をメールにてご案内します。

問い合わせ先

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

E-mail: 3academic@tachibana-u.ac.jp

京都橋大学 看護教育研修センター

TEL & FAX: 075-574-4133 ※9:00~17:00(土・日・祝日は除く)

※学位申請に関する手続き等については、大学改革支援・学位授与機構に問い合わせてください。

資料3

2018年度

京都橘大学看護教育研修センター

看護キャリア開発事業 研修会のご案内



本学では、看護職の皆様のキャリアサポートを目的に、看護キャリア開発事業を展開しています。2018年度から新たな取り組みとして、倫理に関する研修会を企画いたしました。学生が抱く倫理的ジレンマについて、理論を用いて参加者の皆様と色々な視点で話し合いたいと思います。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

【研修テーマ】

学生が抱く倫理的ジレンマにあなたならどうこたえますか―事例を通して考える―

【研修のねらい】

- ・ 倫理的問題を考える際に必要な基本的知識と思考プロセスを学ぶ。
- ・ 実践の場で経験する倫理的な問題について、異なる経験を有する実習指導者間でディスカッションすることを通して、実習指導における倫理や、倫理的ジレンマを抱いた学生への関わりについて考えることができる。
- ・ 倫理的な考え方を実習指導に活用するための考え方を理解することができる。

【受講対象】

- ・ 実習指導者の役割を担っている方、または、今後実習指導者の役割を担う方やその関係者
(定員20名*4名以下の場合は中止とさせていただきます。)

【参加費】 4,000円（お弁当、お茶付き、資料代込）

【日程・場所】

2018年9月11日（火）10：00～16：00
京都橘大学

【内容・プログラム】

時間	内容
10：00～11：30	【講義】 倫理に関する基本的知識、思考プロセスについて講義
11：30～13：00	休憩
13：00～16：00	【グループディスカッション・発表】 事例について、理論を用いて整理する

【申し込み方法】

申込方法は決定次第、下記のホームページに掲載します。
看護キャリア開発事業URL（右のQRコードからもアクセスできます）
http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/career_development/



担当事務・問い合わせ

京都橘大学看護教育研修センター
看護キャリア開発事業担当

TEL&FAX: 075-574-4133

E-mail: 3academic@tachibana-u.ac.jp

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

※9：00～17：00（土・日・祝日は除く）



育ちあり、響きあり

京都橘大学

京都橘大学看護教育研修センター 年報2018

発 行：2019年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX：075-574-4133

E-mail：cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/